

平成27年度事業計画

(経理単位名) 学校法人 東京医科大学本部

各施設における主な事業計画

1. 法人本部

- ① 中長期ビジョンおよび基本方針の策定
- ② 中長期計画の策定
- ③ 財政基盤の強化
 - ・全学をあげての帰属収支差額目標値の達成
 - ・創立100周年記念事業募金委員会を中心とした募金活動の継続
 - ・資材調達管理室での一括購入等による経費の削減
- ④ 内部監査室における監査内容の充実
 - ・収支改善政策の検証
 - ・内部通報への的確な対応による、より良い職場環境の構築
- ⑤ コンプライアンス意識向上のための取り組み
- ⑥ 効果的な広報活動の検討および実施
- ⑦ 創立100周年事業広報の展開
- ⑧ 創立100周年記念誌の編纂
- ⑨ 教育職員を除く職員の新人事評価制度の運用と定着化の推進
 - ・新人事評価制度による職員研修の実施
 - ・新人事評価制度による昇進・昇格の検討
- ⑩ 教育職員の人事評価制度の検討
- ⑪ 障がい者雇用の推進
- ⑫ 時間外労働の削減

2. 西新宿キャンパス建設本部

- ① 西新宿キャンパス再開発整備事業
 - ・新大学病院新築工事・既存大学病院改修工事等の推進
 - ・新大学病院新築工事・既存大学病院改修工事に伴うNHP（ニューホスピタルプロジェクト）会議の継続開催
 - ・関係行政機関、地権者等との継続協議

3. 東京医科大学

(1) 学事関係（医学科）

- ① 海外教育交流校および姉妹校への学生派遣、受け入れ推進（派遣学生については、旅費、宿泊費の一部を補助）
- ② 教員の能力開発に関するワークショップの開催
- ③ 国家試験対策の強化として第6学年夏期・冬期強化授業および特別補講授業の継続実施
- ④ 第4学年C B T対策強化授業
- ⑤ 平成27年度第2学年に新カリキュラムを導入
- ⑥ 第6学年選択実習に診療参加型実習の導入を徹底

- ⑦ 新入生学外オリエンテーションの充実（看護学科と合同）
- ⑧ 進学説明会への参加
- ⑨ eラーニングポータル「e自主自学」のコンテンツの充実および認知度の向上
- ⑩ ICT活用教育に関する教育・広報活動
- ⑪ 次期図書館管理システムの検討
- (2) 学事関係（看護学科）
 - ① 設置計画に則った教育体制、授業計画、学生指導等の着実な履行
 - ② 設置計画に則った教育環境（備品、図書、視聴覚器材等）の着実な整備
 - ③ シミュレーション教育の体制および環境の充実
 - ④ オープンキャンパス、ホームページ、進学サイト、進学雑誌、高校訪問等、質の高い学生確保に係る広報活動の充実
 - ⑤ 一般入試、センター試験利用入試、推薦入試、社会人入試の充実
 - ⑥ 看護学科教員FD活動の充実
 - ⑦ 新入生学外オリエンテーションの充実（医学科と合同）
 - ⑧ 地域看護力の強化を目指す教育環境の検討
 - ⑨ 国際的な視座を育む学習環境の検討
- (3) 研究関係
 - ① 外部資金（公的研究費・受託研究費・共同研究費・寄附講座等）の獲得強化
 - ② 外部資金の適正管理・運用の推進
 - ・研究費使用ルールの周知徹底（学内説明会・ハンドブック改定・ホームページ拡充）
 - ・適正な管理、監査体制の充実（文科省等ガイドライン遵守）
- (4) 支援関係
 - ① 女性医師・学生の就業継続・復職支援
 - ② 学部生、大学院生および研修医に対してのキャリア教育の実施
 - ③ 女性研究者支援活動の充実
- (5) 施設設備の充実
 - ① 施設関係
 - ・動物実験センター改修工事
 - ・八王子医療センターテニスコート新設工事
 - ・法定電気点検指摘事項に基づく電気設備改修工事
 - ② 設備関係
 - ・透過型電子顕微鏡（電子顕微鏡室）
 - ・ケミルミイメーシングシステム（R I 研究室）
 - ・マスペクトル解析装置（生化学）

4. 東京医科大学病院

(1) 病院の経営改善方針（ビジョン・戦略等の重点目標）

大学創立100周年事業並びに新病院棟開院に向けて、全教職員が一丸となって努力前進するとともに、目標の達成に向けて更なる経営基盤の強化を図る。

教育・研究・診療の各部門において、体制を更に充実させるとともに、堅実な経営を実践し、長期的な財政基盤の確立を目指す。

特定機能病院として高度な医療を提供するとともに、安心安全な医療について全教職員が情報

を共有し、事故を未然に防ぐべく周知徹底し、実践する。

全教職員が経営意識を保持し、一層の収支改善に努める。

(2) 安全管理・診療体制の充実

- ① 医療安全対策の充実並びに全職員への周知徹底
- ② 院内感染リスクの抑制及び予防対策の徹底
- ③ 地域医療連携の充実（紹介率・逆紹介率の引き上げ）
- ④ 災害発生時を想定した訓練の継続実施

(3) 医療収入の増収策・経費の削減策

① 医療収入の増収策

- ・病床稼働率の向上 (入院)
- ・病院新来患者の獲得 (外来)
- ・重症度の高い入院患者の獲得 (入院)
- ・医療連携の強化による紹介率・逆紹介率の向上 (外来)

② 経費の削減策

- ・後発医薬品への切り替えの推進
- ・D P C 経費率の改善
- ・人件費の抑制
- ・価格交渉の徹底、経費削減意識の継続醸成

(4) 施設設備の充実

① 設備関係

- ・放射線画像情報管理システム更新
- ・急性期患者情報システム設置
- ・I C U / C C U モニタリングシステム更新
- ・循環器用超音波診断装置更新
- ・手術用顕微鏡更新

5. 東京医科大学茨城医療センター

(1) 病院の経営改善方針（ビジョン・戦略等の重点目標）

平成27年度は、茨城医療センターにとって「存続の危機に直面した重要な年」と捉え、全教職員が一丸となって、真の再建に向け取り組むことが課されている。

当センターにおいては、平成10年度より平成22年度まで恒常的な赤字を抱え、平成23年度にはようやく収支差額7千8百万円の赤字と収支均衡実績まで回復し、若干の改善の傾向がみられたものの、平成24年度の保険医療機関指定取消しにより当該年度は17億円の巨額な赤字を計上。平成25年度には12億の赤字と2年連続の大幅な赤字を計上することとなった。

平成27年度には、このような状況からの脱却を図り負の連鎖に陥ることのないよう、全教職員の意識改革を図り、帰属収支差額の収支均衡目標金額の達成を目指し、確実な方策にて堅実に推進していく。具体的には、平成26年度から着手した適正人員数の配備、業務委託費を中心とした経費削減策を推し進め赤字体質を改善していくとともに、出来高制度の下、各診療科ごとに実態に即した具体的な目標値や方策を掲げ、定期的に成果の検証・評価を行いながら、増収を図ることとする。

(2) 安全管理・診療体制の充実

- ① 業務の効率化と安全性の向上（安全管理マニュアル遵守・見直し）

- ② 政策医療の継続（5疾患5事業への積極的な取り組み）
- ③ 地域医療連携の推進（連携医療機関・医師会との連携強化、地域連携パスの導入、紹介率・逆紹介率の向上）
- ④ 救急医療の充実

(3) 医療収入の増収策・経費の削減策

① 医療収入の増収策

- ・各診療科における目標値の設定による増収 (入院)
- ・病床稼働率の向上（最低95%を保持） (入院)
- ・外来患者数の向上（1日平均 最低930名を保持） (外来)
- ・外科系診療単価の改善による入院単価の増収 (入院)
（1人1日平均入院単価52,000円以上を保持）
- ・保険診療の適正化と請求漏れの削減 (入院・外来)
- ・救急搬送患者の積極的な受け入れ (外来)
（年間4,000件を目標）

② 経費の削減策

- ・教職員の適正配置による人件費の抑制（平成26年4月から継続実施）
- ・DPC導入を見据え、後発医薬品への切り替えの推進（平成28年度からDPC導入予定）
- ・業務委託関係を中心に価格交渉の徹底

(4) 施設設備の充実

① 施設関係

- ・人工透析棟屋上・外壁改修工事

② 設備関係

- ・多用途透析監視装置（3式）及び人工透析管理システム（1式）（5ヵ年計画の5期目）
- ・病院情報システム処置オーダ機能追加

6. 東京医科大学八王子医療センター

(1) 病院の経営改善方針（ビジョン・戦略等の重点目標）

八王子医療センターの収支状況は深刻な状況に傾きつつあり、具体的な経営改善策を考慮した予算目標を立てることが重要である。

当センターは、八王子市57万人を含め、142万人を抱える南多摩医療圏域の中核病院として、「先端医療」と「地域医療」の両者の機能を果たすことが求められている。当センターを取り巻く医療環境は大きく変貌しており、近隣の医療機関との有機的な棲み分けに配慮した、密接な医療連携も重要となる。

「断らない医療」、「病床稼働率の改善」、「大学病院としての先端医療の推進・ブランド化」、「基幹型研修病院としての内容充実」が基本的骨格であり、オール八王子医療センターとして教職員全員が現状を認識し、各人が経営面などでの貢献を目指す。

(2) 安全管理・診療体制の充実

- ① 適切な保険診療体制の確立（電子カルテの活用）
- ② 医療事故の防止（医療安全への啓蒙活動）
- ③ 災害拠点病院としての充実

(3) 医療収入の増収策・経費の削減策

① 医療収入の増収策

- ・病床稼働率の向上 (入院)
- ・紹介率・逆紹介率の上昇 (外来)
- ・救急患者の受け入れ件数の増加 (外来)

② 経費の削減策

- ・後発医薬品への切り替えの推進
- ・請求漏れ、未収金の点検制度の導入
- ・教職員の適正配置の推進

(4) 先端医療・ブランド化の推進

① がん診療連携拠点病院の更なる展開

- ・キャンサーボード、外来化学療法の実質化、リニアックの稼働

② 慢性腎疾患の統合的診療（腎移植、人工透析等）の推進

- ・多摩地区の指導的展開および近隣病院とのネットワークの展開

③ 三次救急の充実とER体制の整備改革

④ 患者支援センターの創設による入院患者の利便性向上

⑤ 手術室・集中治療室の効率的運用

⑥ 三次てんかん診療の推進

⑦ 医療連携のエリア拡充（神奈川・山梨）と広報活動（「緑のそよ風」（近隣医師向け）、「みどりの丘」（患者向け）発行）の推進

(5) 施設設備の充実

① 施設関係

- ・リニアック室改修工事（リニアック更新の為）
- ・A館エレベーター（2台）リニューアル工事
- ・D館6階貯湯槽増設工事

② 設備関係

- ・放射線治療システム（リニアック）更新
- ・過酸化水素滅菌装置更新
- ・患者監視装置更新

7. 東京医科大学看護専門学校

(1) 重点目標

教育理念・目的に基づき、質の高い教育の提供を行い、社会に貢献できる質の高い卒業生を育てる。

看護専門学校50年間の教育の成果・意義を内外に示し、有終の美で歴史を終了する。

(2) 学事関係

① 教育の質の維持に向けた取り組み

- ・教員のモチベーション維持に向けた取り組み
- ・教員間および非常勤講師との連携の強化
- ・教育の質向上のための教育研究・研修への取り組みを継続

② 看護師国家試験対策の強化継続

③ 閉校に向けて単位未認定者減少のための取り組み

- ・学生への個別指導強化、心身の健康管理のフォロー

- ・教育～評価システムの状況に応じた検討
- ・単位未認定者発生の場合の学業継続のための早期対応
- ④ 本学関連病院への入職者増加および卒業生の定着に関する支援
(関係部門との連携・協力体制の継続強化)
- ⑤ 50年間の本校の教育の締めくくりとしての取り組み(紀要等でのまとめ)
- (3) 管理関係
 - ① 閉校(平成28年3月)に向け留年者対策について教員との協力体制を強化
 - ② 財産(施設・備品等)の移管及び廃棄作業の効率化および費用の節儉
 - ③ 教職員の適正人員配置
 - ④ 平成28年閉校後に継続する事務の移管および保管書類の準備
 - ⑤ 閉校後の事務引継ぎに万全を期すよう、各課との連携を図る
 - ⑥ 図書室における医学部との共同利用体制の強化および円滑な移管

8. 東京医科大学霞ヶ浦看護専門学校

(1) 重点目標

看護職として必要な専門知識および看護技術を身につけることはもとより、生命を尊び人としての権利とその人らしさを尊重し行動できる高い倫理観と心豊かな人間性を養い、看護基礎教育の動向を踏まえつつ、教育の質の向上に努め医療現場で自律して看護を実践できる看護師を養成する。

(2) 学事関係

- ① 教育の質の向上および効果的評価による授業改善
 - ・評価体制の整備、評価方法の見直し
(授業評価の実施、評価結果のフィードバック、実習施設との連携強化、卒業時看護技術到達度に基づく技術演習の参観体制)
 - ・職域を越えた連携の重要性の習得に向けた積極的な取り組み
- ② 看護師国家試験合格率の維持
 - ・低学年から計画的な国家試験対策を計画
 - ・国家試験対策を強力かつ計画的に実施し合格水準の維持
- ③ 本学への就職率向上および卒業生定着に対する支援
 - ・本学関係機関との連携および協力体制の強化
 - ・進路ガイダンス、就職説明会(実習指導者や認定看護師による経験談)
 - ・卒業生の動向・就職先評価の把握
- ④ 教職員教育の充実
 - ・教育の質向上に向けた研修の充実支援
 - ・教育課程・教育活動の自己点検・自己評価の継続
 - ・教員養成講習会の受講

(3) 管理関係

- ① 優秀な学生確保のための取り組み
 - ・効果的な学校PR・募集活動の展開(オープンキャンパス等)
 - ・社会人や一般大学生を対象とした広報活動
 - ・魅力的なホームページ広報活動・各種イベントのガイダンス参加
- ② 学習環境の改善

・教室の有効活用・夜間自由学習場所の確保

③ 授業料等の改正の取り組み

・近隣看護専門学校との料金格差是正（平成14年以降未実施）